

2025 年度 コーチング体験研修 実施報告書

CPD 委員会 山本達也
地域産業支援委員会 林 克彦

研修日時： 2025 年 6 月 28 日（土）13:00～17:00

研修会場： 新都心ビジネス交流プラザ 4 階 C 会議室（さいたま市中央区上落合 2-3-2）

参加人員： 会員技術士 16 名（うち運営スタッフ 2 名）、講師 1 名

講師： 若林 真樹（わかばやし まさき）氏

株式会社コーチビジネス研究所 CBL 認定アソシエイトコーチ

日本技術士会 北陸本部 所属 技術士（化学部門・経営工学部門）

1. 研修内容

1) 技術士がコーチングを学ぶ意味

- ・技術士のクライアント像
- ・コンサルタントが陥りがちな傾向
- ・技術的課題（コンサルティング的アプローチ）と適用課題（コーチング的アプローチ）の違い 他
※適用課題を技術的課題として扱うとうまく行かない

2) コーチングとは何か

- ・コーチングの考え方（基本型、他の対人支援との違い）
- ・コーチングスキル（承認/傾聴/質問）
- ・実演&実践によるコーチング体験と振り返り 他

3) コーチング的な関わり

- ・若林講師の事例紹介と考察 他



2. 研修状況

五十嵐講師を予定していたが、ご都合で若林講師に交代した。若林講師は企業内技術士として約 20 年間、品質管理・品質保証業務に従事されてきた。現在は、「現場改善リーダー専門コーチ」として現場・職場の問題解決を支援している。体験研修のため集合形式で実施したが、遠方からの参加もあり、県支部内外を問わず広く技術士会会員に CPD の機会を提供した。

本研修の目的は「コーチングの考え方とスキルを習得し、各自の現場に持ち帰る」ことである。冒頭、三人一組になり、自己紹介・参加理由・目標を共有した。その後、講師が提示した事例を基に「限られた時間でクライアントにどんな質問をするか」をディスカッションし、コンサルティングのみでは限界があることを体感的に理解した。

演習では コーチ役・クライアント役・観察者を交代しながら実施した。和やかな雰囲気の中、多くの質問が生まれ、コーチングの実践価値を体感した。コーチングは人間同士の対話が不可欠あり、生成 AI では代替できない技能であることを再確認した。

最後に近藤委員長より、技術士の視点でコーチング研修を実施いただいた若林講師へ謝辞を述べるとともに、コンサルタント主体の技術士がコーチング手法を取り入れ「相手に考えてもらう」ことの重要性を強調し閉会した。

本研修は技術士がコーチングを体験できる貴重な機会であり、埼玉県支部の登録相談員に必須の登録要件となっている。次回も多くの会員技術士の参加を促したい。

以上

